

|   |                |  |
|---|----------------|--|
| 文学概論  | 通年 4 単位        |  |
| 批評理論の歴史   | 辻 吉祥 (つじ よしひろ) |  |
| <p><b>【ねらい】</b><br/> 文学を読むことの歴史は、同時に読む主体の歴史です。文学理論、批評理論について学ぶことは、読む主体が、自分自身の背後に回り込む技術を習得すること、と考えればよいでしょう。そんなことができるだろうか——。そうできれば、読むことが、飛躍的に自在になります。</p> <p><b>【授業計画：前期】</b><br/> 第 1回 導入<br/> 第 2回 V・シクロフスキー「手法としての芸術」——「異化」とは何か<br/> 第 3回 B・プレヒト「実験的演劇について」——「異化効果」<br/> 第 4回 M・バフチン——フォルマリズム批判<br/> 第 5回 E・サイード『オリエンタリズム』—異者の眼差し<br/> 第 6回 学生による発表とディスカッション1<br/> 第 7回 学生による発表とディスカッション2<br/> 第 8回 学生による発表とディスカッション3<br/> 第 9回 学生による発表とディスカッション4<br/> 第 10回 学生による発表とディスカッション5<br/> 第 11回 学生による発表とディスカッション6<br/> 第 12回 学生による発表とディスカッション7<br/> 第 13回 学生による発表とディスカッション8<br/> 第 14回 学生による発表とディスカッション9<br/> 第 15回 まとめ</p> <p><b>【授業計画：後期】</b><br/> 第 1回 前期の学習内容の確認と後期の導入<br/> 第 2回 ロラン・バルト——作者の死1<br/> 第 3回 ロラン・バルト——作者の死2<br/> 第 4回 ジェンダー批評1<br/> 第 5回 ジェンダー批評2<br/> 第 6回 学生による発表とディスカッション1<br/> 第 7回 学生による発表とディスカッション2<br/> 第 8回 学生による発表とディスカッション3<br/> 第 9回 学生による発表とディスカッション4<br/> 第 10回 学生による発表とディスカッション5<br/> 第 11回 学生による発表とディスカッション6<br/> 第 12回 学生による発表とディスカッション7<br/> 第 13回 学生による発表とディスカッション8<br/> 第 14回 学生による発表とディスカッション9<br/> 第 15回 まとめ</p> <p><b>【進め方】</b><br/> 自らの読みを見つめ直すための批評理論は非常に多くあります。ここではそのうち主要なものを丁寧に読み、他の理論にもできるだけ触れていくようにします。なかでもジェンダーの視点は最も重要です。他の授業内容にもつなげて理解を発展させることが大切です。後半は実際に作品の中でそれらがどのように駆使されているのか研究し、発表します。</p> <p><b>【テキスト】</b><br/> プリントで配布します。(丁寧に説明しますが英語も使用します)</p> <p><b>【参考文献】</b><br/> もし買うなら、David Lodge and Nigel Wood eds., <i>Modern Criticism and Theory : A Reader</i> 3rd ed. (Pearson Longman, 2008) は一生使えます。但し旧版のほうが便利。</p> <p><b>【評価方法】</b><br/> レポート(前期・後期計2回) 50%、出席30%、発表20%</p> |                |  |

|                               |   |  |          |
|-------------------------------|---|--|----------|
| 英文学演習Ⅰ                        |   | 通年 4 単位  |          |
| ヴァージニア・ウルフThe London Scene 精読 |   | 丹羽 隆子 (にわ たかこ)   |          |
| ねらい                           | 20世紀英文学を代表する作家の一人Virginia Woolf のエッセイ集を読みます。溢れる詩的想像力と鋭い人生批評・社会批評が魅力的なエッセイ4編を読みながら、現代文学の「意識の流れ」手法の絶妙さを知り、さらにモダニスト、フェミニストとしての作家の一面も考えます。英文は難解ですが、やりがいのある満足度の高い授業です。   |  |          |
| 授業計画                          | <p>【前期】</p> 第1回 授業についてオリエンテーション<br>第2回 モダニスト・ウルフ、「意識の流れ」手法について講義<br>第3回 "The Docks of London" 精読<br>第4回 "The Docks of London" 精読<br>第5回 "The Docks of London" 精読<br>第6回 "The Docks of London" 精読<br>第7回 "The Docks of London" 精読<br>第8回 "The Docks of London" 精読<br>第9回 "The Docks of London" 精読<br>第10回 "The Docks of London" 精読<br>第11回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第12回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第13回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第14回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第15回 前期末試験 | <p>【後期】</p> 第1回 映画 Mrs Dalloway 鑑賞、ヴァーチャル・ロンドン観光<br>第2回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第3回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第4回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第5回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第6回 "Oxford Street Tide" 精読<br>第7回 "Great Men's Houses" 精読<br>第8回 "Great Men's Houses" 精読<br>第9回 "Great Men's Houses" 精読<br>第10回 "Great Men's Houses" 精読<br>第11回 "The Abbeys and Cathedrals" 精読<br>第12回 "The Abbeys and Cathedrals" 精読<br>第13回 "The Abbeys and Cathedrals" 精読<br>第14回 "The Abbeys and Cathedrals" 精読<br>第15回 後期末試験 |          |
| 進め方                           | 学生番号順に当てます。しっかり辞書を引き、精読、熟読玩味しますので進度はゆっくりです。しかし新学期には歯が立たないと思った難解な英文が、次第によく読めるようになっていくことをみなが実感して喜ぶ、そんな授業です。   |  |          |
| テキスト                          | コピーして配布   | 参考文献   | 授業中に適宜紹介 |
| 評価方法                          | 出席数:20% 授業発表(参加度):30% 期末試験:50%  |  |          |

|                           |   |   |              |
|---------------------------|---|---|--------------|
| 英文学演習Ⅱ                    |   | 通年 4 単位   |              |
| The Merchant of Veniceを読む |   | 藤村 待子 (ふじむら まちこ)  |              |
| ねらい                       | シェイクスピアの『ヴェニスの商人』を原語で読みます。同時に、シェイクスピアの時代の文化や社会、信仰について考察し、さまざまな視点から作品を読んでいきたいと思えます。(現代英語と異なる語法や語彙、作品中で言及されている聖書や文学作品の箇所などについては、適宜授業中に言及していきます。)  |   |              |
| 授業計画                      | <p>【前期】</p> 第1回 16世紀、17世紀の政治、宗教、社会について<br>第2回 シェイクスピアの時代の英語について(1)<br>第3回 シェイクスピアの時代の英語について(2)<br>第4回 16世紀の演劇、グローブ座について<br>第5回 作品について(執筆推定年代、材源など)<br>第6回 1幕<br>第7回 1幕<br>第8回 1幕<br>第9回 1幕<br>第10回 2幕<br>第11回 2幕<br>第12回 2幕<br>第13回 2幕<br>第14回 3幕<br>第15回 前期末試験 | <p>【後期】</p> 第1回 3幕<br>第2回 3幕<br>第3回 3幕<br>第4回 4幕<br>第5回 4幕<br>第6回 4幕<br>第7回 4幕<br>第8回 5幕<br>第9回 5幕<br>第10回 5幕<br>第11回 5幕<br>第12回 批評史、上演と受容について(1)<br>第13回 批評史、上演と受容について(2)<br>第14回 批評史、上演と受容について(3)<br>第15回 まとめ |              |
| 進め方                       | 受講者には、分担で、短い箇所の原文について、訳読や内容のコメントを発表していただきます。その内容と関連して授業を進めていきます。また、さまざまなテーマについて短くディスカッションする時間を持つ予定です。ただ、進め方は受講者の人数、関心などで柔軟に修正する予定です。  |   |              |
| テキスト                      | Shakespeare『The Merchant of Venice』(大修館シェイクスピア双書)、また適宜プリントを配布します。   | 参考文献  | 授業中に適宜紹介します。 |
| 評価方法                      | 出席・授業への参加:20% 授業内の小発表:20% 前期末試験:30% 後期末レポート:30%   |   |              |

| 米文学演習Ⅰ                 |   | 通年 4 単位  |  |
|------------------------|---|--|--|
| 「失われた世代」とアーネスト・ヘミングウェイ |   | 宮内 華代子 (みやうち かよこ)  |  |
| ねらい                    | ヘミングウェイの作品と研究書・書簡を取り上げ、彼の文学の特質を知り、それを生み出した時代との関連を学ぶ。それにより、ヘミングウェイの「人」と「作品」を多角的に捉え、波瀾に富み、数々のエピソードを生み出した彼の生涯についても学びます。  |  |  |
| 授業計画                   | <p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション<br>第2回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第3回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第4回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第5回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第6回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第7回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第8回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第9回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第10回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第11回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第12回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第13回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第14回 筆記小テスト<br>第15回 『誰がために鐘は鳴る』DVD鑑賞、感想文提出 | <p>【後期】</p> 第1回 グループ研究、資料検索方法図書館ガイダンス<br>第2回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第3回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第4回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第5回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第6回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第7回 グループ研究、資料解説・解説、添削指導<br>第8回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第9回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第10回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第11回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第12回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第13回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第14回 学生の発表・討論、資料解説・解説、添削指導<br>第15回 筆記小テスト |  |
| 進め方                    | 毎回授業の最初に研究論文(英文)から抜粋したプリントによる小テスト、それに関して解説・解説を行う。テキストの作品・書簡は分担した学生の担当者がレポートを作成し、口頭発表と質疑応答により読み進める。後期の授業ではテーマ別のグループ研究を取り入れる。随時、課題について、記述式解答を提出する。  |  |  |
| テキスト                   | <i>Indian Camp &amp; Other Stories of E.H.(成美堂)</i> 、<br>フィッツジェラルド/ヘミングウェイ往復書簡集(ダイナミックセラーズ出版)   | 参考文献   | <i>Carlos Baker:Hemingway(Princeton Univ. Press)</i> |
| 評価方法                   | 後期試験レポート:30% グループ研究レポート:20% 出席:20% レポート発表:20% 前後期末小テスト:10%  |  |  |

| 米文学演習Ⅱ                                |  | 通年 4 単位   |      |
|---------------------------------------|--|---|------|
| チカーノ(メキシコ系アメリカ人)が語るアメリカ南西部/サウスウェストの物語 |  | 齋藤 修三(さいとう しゅうぞう)   |      |
| ねらい                                   | 米国のラテン化を推し進めるヒスパニック系、その中核をなすチカーノについて文学・映画・音楽・美術等を通じて学ぶ。褐色の二級市民として歴史の間に埋もれてきた人々の、豊かな北と貧しい南、英語とスペイン語、同化主義と多文化主義、男と女、支配と被支配の双方がせめぎ合う「混血の声」は、ボーダーレス化する日本に何を問いかけるのだから   |   |      |
| 授業計画                                  | <p>【前期】</p> 第1回 イントロ<br>第2回 絵本に見るチカーノたち<br>第3回 絵本に見るチカーノたち～歴史<br>第4回 歴史<br>第5回 歴史<br>第6回 歴史～映画『ミ・ファミリア』<br>第7回 大人になること(男の子の場合)～中間レポート要項説明<br>第8回 大人になること(女の子の場合)～中間レポート締め切り<br>第9回 チカーノ公民権運動<br>第10回 同化主義vs多文化主義<br>第11回 同化主義vs多文化主義<br>第12回 言語論争～スパングリッシュ<br>第13回 言語論争～スパングリッシュ～期末レポート要項説明<br>第14回 言語論争～スパングリッシュ<br>第15回 前期まとめ～期末レポート締め切り | <p>【後期】</p> 第1回 風土・自然<br>第2回 風土・自然<br>第3回 チカーノ・アート<br>第4回 チカーノ・アート<br>第5回 チカーノ音楽<br>第6回 チカーノ音楽<br>第7回 中間レポート要項説明～映画『ガール・ファイト』<br>第8回 中間レポート締め切り～映画『ガール・ファイト』<br>第9回 大人になること(女の子の場合)<br>第10回 チカーノ・フェミニズム<br>第11回 チカーノ・フェミニズム<br>第12回 チカーノ・アクティヴィズム<br>第13回 チカーノ・アート・アクティヴィズム<br>第14回 まとめ～期末レポート要項説明<br>第15回 まとめ～期末レポート締め切り |      |
| 進め方                                   | 上記のテーマごとに英文と日本語の資料や作品・AV資料を鑑賞する。講義の他に演習形式でリポーターを中心にディスカッションを行う。  |   |      |
| テキスト                                  | 大泉・牛島共編『アメリカのヒスパニック＝ラティノを知るための55章』明石書店、他プリントを準備する。   | 参考文献  | 随時紹介 |
| 評価方法                                  | レポート4本:60% 平常点(出席他):40%  |   |      |

|         |   |   |                       |
|---------|---|---|-----------------------|
| 英語学演習Ⅰ  |   | 通年 4 単位   |                       |
| 生成統語論入門 |   | 仁科 弘之 (にしな ひろゆき)  |                       |
| ねらい     | 言語能力の解明を目指す文法である「生成文法」の基本的発想を理解するクラスです。目標は、(1) 英語の基本的構文をこの枠組みで理解することができ、さらに(2) この枠組みで自らその構文の導出ができるようになる、ことです。(以下が扱う範囲ですが、進度は皆さんの理解度によって大きくかわる可能性があります。)   |   |                       |
| 授業計画    | <p>【前期】</p> 第1回 導入<br>第2回 ヒトは何故母語を話せる? : 文法と母語習得<br>第3回 文の仕組みは木で : 構造と樹形表示<br>第4回 品詞は実は3重構造 : 範疇<br>第5回 文の内部構造 : 構成素構造<br>第6回 構造は規則でつくる : 句構造規則と構成素構造<br>第7回 「代名詞」には種類がある!<br>第8回 「近距離」代名詞について : 束縛理論(1)<br>第9回 「長距離」代名詞について : 束縛理論(2)<br>第10回 品詞の松、竹、梅 : Xバー理論の階層と投射<br>第11回 動詞の階層性 : 動詞句構造、形容詞句構造<br>第12回 階層性の「部品」名 : 主部、補部、指定部、付加部<br>第13回 拡張Xバー理論 : 名詞、冠詞、決定詞句<br>第14回 時制も品詞だ! : 時制句と補文標識句<br>第15回 復習とまとめ | <p>【後期】</p> 第1回 Xバー理論の復習<br>第2回 動詞は主語、目的語におふだを振る : 意味役割(1)<br>第3回 意味役割(2)<br>第4回 動詞は動く、本当に : 主要部移動 : V移動(1)<br>第5回 主要部移動 : V移動(2)<br>第6回 時制も動く : 主要部移動、T移動とDOの支え(1)<br>第7回 主要部移動 : T移動とDOの支え(2)<br>第8回 名詞を動かすと文が完成する : 名詞句移動と受動文<br>第9回 「て、に、を、」の文法 : 格と受動文(1)<br>第10回 格と受動文(2)<br>第11回 主語は何処にいた? : 動詞句内主語仮説(1)<br>第12回 動詞句内主語仮説(2)<br>第13回 全部つかってアイルランドを : 繰上げ文と制御(1)<br>第14回 繰上げ文と制御(2)<br>第15回 まとめ |                       |
| 進め方     | 英文テキストを、読める所は読んで理解に努めてきて下さい。講義をよく聞き板書をノートをしっかりとつること。そうすれば必ず理解できます。辞書は語法の詳しいものを。多色ボールペンを持参すると便利。何でも質問して下さい。出席重視私語厳禁、私語のあるときは退席して外で、その後戻る事、そのまま帰るのはだめです。  |   |                       |
| テキスト    | 授業初回に英文プリントを配布。必ず出席のこと。解説プリント(日本語)も適宜配布。話をよく聞いてノートをとることが(良い成績の)単位をえるための近  | 参考文献  | 文献解題を配布し、クラスで随時紹介します。 |
| 評価方法    | 出席度:30% 講義の理解度:30% レポート(問題演習):40%   |   |                       |

|        |  |  |                      |
|--------|--|--|----------------------|
| 英語学演習Ⅱ |  | 通年 4 単位  |                      |
| 社会言語学  |  | 江田 優子 (こうだ ゆうこ)  |                      |
| ねらい    | 本講では、言語と文化、アイデンティティの問題を考えていきます。前期はシンガポールにおける英語使用の現状を踏まえ、言語と民族の関係を学んでいきます。後期は異文化コミュニケーションの基礎を学び、具体例として国際結婚の調査および発表を行います。前後期を通じて、言語、異文化への関心を高め、理解を深めることを目的とします。  |  |                      |
| 授業計画   | <p>【前期】</p> 第1回 インTRODクダクシヨウ<br>第2回 言語、方言、変種<br>第3回 二言語使用<br>第4回 言語と文化 (サビア・ウォーフの仮説)<br>第5回 言語変種<br>第6回 シンガポールの英語史Ⅰ<br>第7回 シンガポールの英語史Ⅱ<br>第8回 発表グループ分け、準備<br>第9回 まとめテスト・DVD鑑賞<br>第10回 発表1<br>第11回 発表2<br>第12回 発表3<br>第13回 発表4<br>第14回 Review<br>第15回 予備日 | <p>【後期】</p> 第1回 国家・人種・文化の定義<br>第2回 世界地図のイメージ<br>第3回 マスコミュニケーションとステレオタイプ<br>第4回 異文化コミュニケーションの基本となる考え方<br>第5回 アイデンティティ<br>第6回 言語コミュニケーション<br>第7回 非言語コミュニケーション<br>第8回 国際結婚についての調査計画<br>第9回 まとめテスト、DVD鑑賞<br>第10回 発表1<br>第11回 発表2<br>第12回 発表3<br>第13回 発表4<br>第14回 テスト講評・国際結婚について感想文作成<br>第15回 予備日 |                      |
| 進め方    | 原則的には教師の講義と学生の発表を交互に行っていきます。前期は教師の指定した文献の調査とまとめを発表します。後期はグループ別に調査を行い、PPを使用してまとめを発表します。   |  |                      |
| テキスト   | 必要に応じて資料配布。  | 参考文献   | 社会言語学入門(上・下)(リーベル出版) |
| 評価方法   | 出席:20% 授業参加度:20% テスト・発表:60%  |  |                      |

| 英国文化演習     |   | 通年 4 単位   |   |
|------------|---|---|---|
| イギリス文化史を学ぶ |   | 梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)  |   |
| ねらい        | おもに近代以降の「イギリス文化史」を学ぶ。イギリスは連合王国の内部やヨーロッパ、北米大陸、大英帝国との相互関係のなかで多層的な文化を生みだしてきた。階級、エスニシティ、人種、ジェンダーなどの絡み合いのなかで、私たちが「イギリス的」だと感じる文化がどのように創造され、変容し、さらに再創造されたのかを考える。   |   |   |
| 授業計画       | <b>【前期】</b><br>第1回 イントロダクション<br>第2回 イギリス文化史概説(1)<br>第3回 イギリス文化史概説(2)<br>第4回 文化史というアプローチ<br>第5回 制度と文化(1) 宗教と文化<br>第6回 制度と文化(2) 政治と文化<br>第7回 映画『クイーン』: イギリスの君主制<br>第8回 制度と文化(3) 労働と文化<br>第9回 制度と文化(4) 福祉と文化<br>第10回 制度と文化(5) 教育と文化<br>第11回 映画『カレンダー・ガールズ』: 結社と啓蒙<br>第12回 「イギリス人らしさ」を読み解く(1) イギリス料理<br>第13回 「イギリス人らしさ」を読み解く(2) イギリス人と傘<br>第14回 まとめ(1)<br>第15回 まとめ(2) | <b>【後期】</b><br>第1回 後期イントロダクション<br>第2回 「イギリス人らしさ」を読み解く(3) 娯楽<br>第3回 「イギリス人らしさ」を読み解く(4) ウェールズ<br>第4回 「イギリス人らしさ」を読み解く(5) 女たちのイギリス<br>第5回 映画『ミス・ポター』: ヴィクトリア朝の女性<br>第6回 20世紀のイギリス<br>第7回 「悩めるイギリス」の文化的起源(1) 第一次世界大戦<br>第8回 「悩めるイギリス」の文化的起源(2) 無名兵士の追悼<br>第9回 映画『ライアの娘』: 第一次世界大戦の傷跡<br>第10回 「悩めるイギリス」の文化的起源(3) 帝国の逆襲<br>第11回 「悩めるイギリス」の文化的起源(4) ニューカルチャー<br>第12回 揺らぐアイデンティティ——「イギリス人」のゆくえ<br>第13回 映画『ラブ・アクチュアリー』: 人びとのつながり<br>第14回 まとめ(1)<br>第15回 まとめ(2) |   |
| 進め方        | 全員が予習してくることを前提として、テキストの輪読を行う。レポーターによる発表やディスカッションなど、学生の積極的な参加が求められる。詳しい授業の進め方については、初回の授業で説明する。なお取り上げるテーマは、履修者の人数や関心にあわせて随時変更することもあろう。  |   |   |
| テキスト       | 井野瀬久美恵編『イギリス文化史』昭和堂、2010年   | 参考文献  | 図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。それ以外の文献については授業中に適宜紹介する。 |
| 評価方法       | 出席状況:20% 授業への参加姿勢:50% 前期レポート:15% 後期レポート:15%   |   |   |

| 米国文化演習       |  | 通年 4 単位   |   |
|--------------|--|---|---|
| スクリーンに見る黒人女性 |  | 岩本 裕子 (いわもと ひろこ)  |   |
| ねらい          | アメリカ黒人の「はじめて」は、彼らの意志とは無関係にアフリカ大陸から「連れてこられて」アメリカ大陸に運ばれた1619年のことである。以後391年間の黒人史を踏まえて、映像に描かれた黒人女性について考えていきたい。   |   |   |
| 授業計画         | <b>【前期】</b><br>第1回 前期講義内容紹介<br>第2回 前期発表担当映画決定(以下担当映画)<br>第3回 『風と共に去りぬ』<br>第4回 『南部の唄』<br>第5回 『アミスタッド』<br>第6回 『ピラウド』<br>第7回 『ルーツ』<br>第8回 『クイーン』<br>第9回 『ジョゼフィン・ベーカー物語』<br>第10回 『ビリー・ホリデー物語』<br>第11回 『カラー・パープル』<br>第12回 ドキュメンタリー『戦士の刻印』<br>第13回 講義: 黒人音楽の源流をたどる | <b>【後期】</b><br>第1回 後期発表担当映画決定(以下担当映画)<br>第2回 『ロング・ウォーク・ホーム』<br>第3回 『ゴースト・オブ・ミシシッピ』<br>第4回 『マルコムX』<br>第5回 『ゲット・オン・ザ・バス』<br>第6回 『スクール・デイズ』<br>第7回 『ドウ・ザ・ライト・シング』<br>第8回 『招かれざる客』と『ジャングル・フィーバー』<br>第9回 『ボーイズン・ザ・フード』<br>第10回 『ボエティック・ジャスティス』<br>第11回 『ため息つけて』<br>第12回 『ソウル・フード』<br>第13回 『ティナ』<br>第14回 講義: 黒人教会のクリスマス礼拝<br>第15回 レポート提出、年度末お別れ講義 |   |
| 進め方          | 授業はグループごとの学生の発表を中心に進めていく。発表担当者はレジメを作成して、クラスの他学生の理解の指針を提示する。映画を題材とした発表となるために、必ず発表の対象とした映画を持参して発表時には最適と思われる箇所(約10分程度)を見せるようにする。  |   |   |
| テキスト         | 岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』(メタ・ブレン、1999年)   | 参考文献  | 大学や地域の図書館などを有効に使い、よりよい発表のためにどのような参考書を使えばよいかは、発表仲間との共同作業で探してほしい。 |
| 評価方法         | 出席:30% 各学期1回の発表:30% 各学期1回のレポート:40%   |   |   |

|             |   |   |      |
|-------------|---|---|------|
| 英語表現特講      |   | 通年 4 単位   |      |
| 構造で書く英文エッセイ |   | 宮内 華代子 (みやうち かよこ)   |      |
| ねらい         | 英文の構成を理解し、あるまとまった文章を英語で書けるようになる能力を養成する  |   |      |
| 授業計画        | <b>【前期】</b><br>第1回 インTRODakション<br>第2回 Conclusions / Reasons<br>第3回 Conclusions / Reasons<br>第4回 Conclusions / Reasons<br>第5回 Analysis<br>第6回 Analysis<br>第7回 Analysis<br>第8回 Theory / Proof<br>第9回 Theory / Proof<br>第10回 Theory / Proof<br>第11回 Controversy<br>第12回 Controversy<br>第13回 Controversy<br>第14回 Comparison / Contrast<br>第15回 <Review> | <b>【後期】</b><br>第1回 Comparison / Contrast<br>第2回 Comparison / Contrast<br>第3回 Classification<br>第4回 Classification<br>第5回 Classification<br>第6回 Instruction<br>第7回 Instruction<br>第8回 Instruction<br>第9回 Chronological Order<br>第10回 Chronological Order<br>第11回 Chronological Order<br>第12回 Cause and Effect<br>第13回 Cause and Effect<br>第14回 Cause and Effect<br>第15回 <Review> |      |
| 進め方         | 2冊のテキストに沿って、講義、学生の発表・演習を行う。テキストに沿って問題に取り組み、様々なトピックに関する模範英文を暗記し、作文力増強に役立つ色々な形式の練習問題を解く。随時小テスト、英文自由作文作成などを実施。授業には予習、宿題をしてきて出席すること。  |   |      |
| テキスト        | Skills for Better Writing (南雲堂)<br>英語表現構文 (南雲堂)   | 参考文献  | 随時紹介 |
| 評価方法        | 前後期試験 :50% 出席:20% 平常点・小テスト:30%  |   |      |

|                          |  |  |  |
|--------------------------|--|--|--|
| Listening and Discussion |  | 通年 4 単位  |  |
| Listening and Discussion |  | シミズ (SHIMIZU, M. M.)   |  |
| ねらい                      | The purpose of this course is to increase the listening and speaking level of the student through the discussion of different business situations.   |  |  |
| 授業計画                     | <b>【前期】</b><br>第1回 1) Course Introduction<br>第2回 2) Who's the Boss?<br>第3回 3) What's in the Works?<br>第4回 4) That's My Department<br>第5回 5) Research & Development (R&D)<br>第6回 6) Brainstorming<br>第7回 7) Product Ideas<br>第8回 8) Product Proposals - presentations<br>第9回 9) New Projects and Project Managers<br>第10回 10) Evaluate pro's & con's<br>第11回 11) Best Product: The Winner is...<br>第12回 12) Poster Presentation - preparations<br>第13回 13) Poster Presentation - Test | <b>【後期】</b><br>第1回 14) Customer is King<br>第2回 15) Opinions<br>第3回 16) Survey manners<br>第4回 17) Market Research<br>第5回 18) Market Research Handout - preparations<br>第6回 19) Making Good Presentations<br>第7回 20) Presentations - preparations<br>第8回 21) Presentations - fill out Evaluation forms<br>第9回 22) Final Project and Project Manager (new)<br>第10回 23) Infomercial - Storyboard<br>第11回 24) Infomercial - Prepare script<br>第12回 25) Infomercial - planning details<br>第13回 26) Infomercial Presentation- Test<br>第14回 27) Presentation Results and Course Evaluation |  |
| 進め方                      | During the course, each student will be expected to become a project leader. They will be responsible for making sure that their project is completed by the deadline given by the teacher.  |  |  |
| テキスト                     | Widgets, Marcos Benevides (Longman)  | 参考文献   |  |
| 評価方法                     | Presentations:60% Participation and Homework:30% Attendance:10%  |  |  |

| 翻訳論                  |   | 通年 4 単位  |   |
|----------------------|---|--|---|
| 日本文学の英訳、英米文学の和訳を比較する |   | 井原 真理子 (いはら まりこ)   |   |
| ねらい                  | 皆さんは、今まで翻訳を通じて世界のさまざまな文学に親しんでいらしたと思います。さて、それらが「翻訳された」作品なのだということ意識したことはありますか。この授業では、日本語では言い古された表現が英訳でかえってみずみずしく迫ってくるのを確認したり、英語の原典が持っている「微妙なニュアンス」について考えてみたいと思います。  |  |   |
| 授業計画                 | <b>【前期】</b><br>第1回 Introduction<br>第2回 翻訳の理論について<br>第3回 同上<br>第4回 俳句を読み、翻訳と比較する<br>第5回 同上<br>第6回 同上<br>第7回 同上<br>第8回 同上<br>第9回 和歌を読み、翻訳と比較する<br>第10回 同上<br>第11回 同上<br>第12回 同上<br>第13回 同上<br>第14回 同上<br>第15回 前期小論文について | <b>【後期】</b><br>第1回 小テスト（辞書持ち込み可）<br>第2回 英文学の作品を読む。<br>第3回 同上<br>第4回 同上<br>第5回 同上<br>第6回 同上<br>第7回 上記作品の翻訳をいくつか比較する。<br>第8回 同上<br>第9回 同上<br>第10回 学生による発表<br>第11回 同上<br>第12回 同上<br>第13回 上記作品の映画化作品をいくつか比較鑑賞<br>第14回 同上 後期小論文について<br>第15回 まとめ |   |
| 進め方                  | まず、原典をじっくりと鑑賞し、その後その翻訳作品を比較検討してゆきます。なお、昨年度英文学科二年時開設の「翻訳論」と内容が重複しないよう、今年度は違う作品を使用します。<br>授業中は、学生には発言を求めたり、文章を書いたり、発表をしたりと積極的な参加を期待します。   |  |   |
| テキスト                 | 授業中に随時配布する。   | 参考文献   | 辞書は必ず持参しましょう。『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）がお薦めです。電子辞書にも入っている場合がありますから、探してみましょ |
| 評価方法                 | 平常点:40% 学期末小論文:60%  |  |   |

| 通訳法          |  | 通年 4 単位   |                   |
|--------------|--|---|-------------------|
| 通訳の理論と通訳法の学習 |  | 井戸 恵美子 (いど えみこ)   |                   |
| ねらい          | 通訳とは何か、通訳者には何が求められるかの紹介と共に、実際の演習を通して、日英・英日の通訳技術の習得、英語力の強化をはかる。日常会話から会議等の場での通訳が実施できるような基礎力をつけると共に、情報を正しく理解し、自然な訳出を作り出す応用力の習得を目指す。その他TOEIC/TOFELのリスニング部分の勉強としても役立つ授業とし   |   |                   |
| 授業計画         | <b>【前期】</b><br>第1回 オリエンテーション<br>第2回 通訳の手法、分野について<br>第3回 話し方の訓練①：シャドーイング他<br>第4回 話し方の訓練②<br>第5回 単語力の強化について<br>第6回 情報の取り方の訓練①：リスニング、リテンション他<br>第7回 情報の取り方の訓練②<br>第8回 単文ごとの逐次通訳①：平易な文章をもとに<br>第9回 単文ごとの逐次通訳②<br>第10回 文法で注意したい点とは①<br>第11回 数の英語<br>第12回 数の入った文章の逐次通訳①：身のまわりの数字を使用<br>第13回 数の入った文章の逐次通訳②<br>第14回 通訳業務にどう備えるか：背景知識の重要性<br>第15回 まとめ・学期末試験 | <b>【後期】</b><br>第1回 前期学習内容の復習、後期のオリエンテーション<br>第2回 文法で注意したい点とは②<br>第3回 情報の取り方の訓練③：要約、パラフレーズ他<br>第4回 情報の取り方の訓練④<br>第5回 伝わりやすい通訳について<br>第6回 メモ取りの練習①<br>第7回 メモ取りの練習②<br>第8回 より長い文章の逐次通訳①：セミナーのオープニングなど<br>第9回 より長い文章の逐次通訳②<br>第10回 サイト・トランスレーションの備え方<br>第11回 サイト・トランスレーション①：挨拶文章をもとに<br>第12回 サイト・トランスレーション②<br>第13回 同時通訳の基礎への挑戦①<br>第14回 同時通訳の基礎への挑戦②<br>第15回 まとめ・学期末試験 |                   |
| 進め方          | 実際の通訳演習が中心。その他、通訳の基礎となる演習や必要な知識を紹介。英語力向上の演習も含むが、適切な日本語の表現にも留意を要する。現場で実際に発生するやり取りを参考にした教材を用いるので、臨場感も大切にしていきたい。講師は現役の通訳者なので、実際の通訳現場の様子、通訳者になる上で必要とされる経験等も随時紹介する予   |   |                   |
| テキスト         | 決まった教科書は使わず、講師が必要な配布物を用意。ほぼ毎回何らかの配布物があり、数週間にわたって使うテキスト文書もあるのでなくさないよう   | 参考文献  | 必要に応じて講師から紹介していく。 |
| 評価方法         | 出席、授業中の発表:50% 宿題、提出物:20% 学期末試験:30%   |   |                   |

|         |  |  |                    |
|---------|--|--|--------------------|
| 比較文化論   |  | 通年 4 単位  |                    |
| 中国の「纏足」 |  | 古田島 洋介 (こたじま ようすけ)   |                    |
| ねらい     | 中国の奇習「纏足」に関する英文を読み、女性の生き方について知識を深めるとともに、英文読解力の向上を図る。英文専攻科だからという狭い理由で欧米のみに目を注ぐことなく、ぜひ日本に多大な影響を与えてきた中国文化の一端にも触れてみてほしい。   |  |                    |
| 授業計画    | <b>【前期】</b><br>第1回 授業の趣旨・方法およびテキストなどの説明<br>第2回 第1章：Introductory Remarks 訳読<br>第3回 同上<br>第4回 同上<br>第5回 同上<br>第6回 同上<br>第7回 同上<br>第8回 同上<br>第9回 同上<br>第10回 同上<br>第11回 同上<br>第12回 同上<br>第13回 同上<br>第14回 同上<br>第15回 同上 | <b>【後期】</b><br>第1回 第2章：Origin and Presence 訳読<br>第2回 同上<br>第3回 同上<br>第4回 同上<br>第5回 同上<br>第6回 同上<br>第7回 同上<br>第8回 同上<br>第9回 同上<br>第10回 同上<br>第11回 同上<br>第12回 同上<br>第13回 同上<br>第14回 同上<br>第15回 まとめ：纏足の歴史 |                    |
| 進め方     | 完全な演習形式を採る。受講者に英文を訳読してもらい、英文読解の要領を詳細に説明するとともに、比較文化論の視点から種々の解説を加えてゆく。受講者は積極的に質問を提出すること。英文読解力の向上も本授業の大きな眼目である。くだらない質問ではないかと懸念する必要はまったくない。  |  |                    |
| テキスト    | Howard S. Levy, <i>Chinese Footbinding, the History of a Curious and Erotic Custom.</i><br>ただし、訳読用の教材はプリントで配付する。   | 参考文献   | ドロシー・コウ『纏足の靴』（平凡社） |
| 評価方法    | 前期レポート（翻訳）：30% 後期レポート（翻訳）：30% 学年末実力試験：20% 発表点：10% 出席点：10%  |  |                    |

|             |  |   |               |
|-------------|--|---|---------------|
| 西洋文化史       |  | 通年 4 単位   |               |
| 古代ギリシア演劇の世界 |  | 小林 薫 (こばやし かおる)   |               |
| ねらい         | 古代ギリシア演劇は、後のヨーロッパ演劇や文学に多大な影響を与えた。本講義では「三大悲劇詩人」アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスの作品を精読する。またこれらの作品が上演された、紀元前後世紀の民主政アテネの社会状況についても学ぶ。   |   |               |
| 授業計画        | <b>【前期】</b><br>第1回 序論：ギリシア演劇の世界<br>第2回 西洋近代における古典古代の受容<br>第3回 民主政アテネの社会と文化<br>第4回 ギリシア悲劇の上演制度<br>第5回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』1<br>第6回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』2<br>第7回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』3<br>第8回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』4<br>第9回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』5<br>第10回 アイスキュロス：『コエーポロイ』1<br>第11回 アイスキュロス：『コエーポロイ』2<br>第12回 アイスキュロス：『エウメニデス』1<br>第13回 アイスキュロス：『エウメニデス』2<br>第14回 アイスキュロス：『オレスティア』三部作と民主政<br>第15回 これまでのまとめ | <b>【後期】</b><br>第1回 テーバイ伝説と『オイディプス王』<br>第2回 ソポクレス：『オイディプス王』1<br>第3回 ソポクレス：『オイディプス王』2<br>第4回 ソポクレス：『オイディプス王』3<br>第5回 ソポクレス：『オイディプス王』4<br>第6回 ソポクレス：『オイディプス王』5<br>第7回 ソポクレス：『オイディプス王』6<br>第8回 アルゴ号伝説と『メーディア』<br>第9回 エウリピデス：『メーディア』1<br>第10回 エウリピデス：『メーディア』2<br>第11回 エウリピデス：『メーディア』3<br>第12回 エウリピデス：『メーディア』4<br>第13回 エウリピデス：『メーディア』5<br>第14回 エウリピデス：『メーディア』6<br>第15回 これまでのまとめ |               |
| 進め方         | 本講義で扱う作品を事前に読んである事を前提に授業を行うので、必ず予習しておく事。スライドやDVDなどを視聴覚教材を用い、理解を助ける。  |   |               |
| テキスト        | アイスキュロス『アガ멤ノン』（久保正彰訳）<br>岩波書店<br>ソポクレス『オイディプス王』（藤沢令夫訳）岩波   | 参考文献  | 参考文献リストを配布する。 |
| 評価方法        | 期末試験（前期）：30% 期末レポート（後期）：50% 課題：10% 出席：10%  |   |               |



|           |   |   |                   |
|-----------|---|---|-------------------|
| 女性学特講     |   | 通年 4 単位   |                   |
| 女性解放思想の歴史 |   | 藤田 和美 (ふじた かずみ)   |                   |
| ねらい       | 「女性学」とは、既存の知や文化をジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。この科目では近代以降の各国の女性解放思想の歴史的過程と女性学研究的学問的成果をふまえつつ、恋愛や結婚、出産、子育て、女性労働、美の規範など現代の女性を取り巻く諸問題について考える。  |   |                   |
| 授業計画      | <b>【前期】</b><br>第1回 女性解放思想とは<br>第2回 日本の女性運動<br>第3回 現代の女性たちをめぐる諸問題①<br>第4回 “ ” ②<br>第5回 世界の女性運動①フランス<br>第6回 ②イギリス<br>第7回 ③アメリカ<br>第8回 ④ドイツ<br>第9回 ⑤ロシア<br>第10回 ⑥北欧<br>第11回 ⑦中国、韓国<br>第12回 ⑧その他<br>第13回 資料の調べ方<br>第14回 資料収集<br>第15回 研究テーマの設定 | <b>【後期】</b><br>第1回 研究発表<br>第2回 研究発表<br>第3回 研究発表<br>第4回 研究発表<br>第5回 研究発表<br>第6回 研究発表<br>第7回 研究発表<br>第8回 研究発表<br>第9回 研究発表<br>第10回 研究発表<br>第11回 研究発表<br>第12回 研究発表<br>第13回 研究発表<br>第14回 研究発表<br>第15回 研究発表 |                   |
| 進め方       | 前期は講義中心に進めるが、後期は講読文献を各自が選んで分担し、ゼミ形式で発表・討論を行う。   |   |                   |
| テキスト      | 特に定めない。   | 参考文献  | 講義開始時に文献リストを配布する。 |
| 評価方法      | レポート:50% 発表:50%   |   |                   |

|                                       |   |  |            |
|---------------------------------------|---|--|------------|
| 国際関係論                                 |   | 通年 4 単位  |            |
| 国際関係論からグローバル関係論へ グローバル市民社会を読み解くトレーニング |   | 芝崎 厚士 (しばさき あつし)   |            |
| ねらい                                   | 1989年のベルリンの壁崩壊以降現在に至るまでの20年以上の世界の重要な出来事を、英語の資料を使って一緒に調べ、学んでいくことで、国際関係、グローバル関係に関する基礎知識を身につけ、映像・音楽に対するリテラシーを高めることがねらいです。英語の資料を主に使いますので、社会に出てから役立つ実践的な英語力も養成します。   |  |            |
| 授業計画                                  | <b>【前期】</b><br>第1回 ガイダンス Chronology 1989<br>第2回 Chronology 1990-91<br>第3回 Chronology 1992-93<br>第4回 Chronology 1994-95<br>第5回 映像分析1 冷戦とは何だったのか<br>第6回 Chronology 1996-97<br>第7回 Chronology 1998-99<br>第8回 Chronology 2000.01-06<br>第9回 映像分析2 90年代の紛争と介入<br>第10回 Chronology 2000.07-12<br>第11回 Chronology 2001.01-06<br>第12回 Chronology 2001.07-12<br>第13回 映像分析3 9.11とテロ戦争<br>第14回 Chronology 2002.01-06<br>第15回 Chronology 2002.07-12 | <b>【後期】</b><br>第1回 Special Seminar<br>第2回 Chronology 2003.01-06<br>第3回 Chronology 2003.07-12<br>第4回 Chronology 2004.01-10<br>第5回 映像分析4 グローバル資本主義を考える<br>第6回 Chronology 2004.11-2005.04<br>第7回 Chronology 2005.05-10<br>第8回 Chronology 2005.11-2006.04<br>第9回 映像分析5 格差と貧困を考える<br>第10回 Chronology 2006.05-10<br>第11回 Chronology 2006.11-2007.04<br>第12回 Chronology 2007.05-10<br>第13回 映像分析6 地球環境問題を考える<br>第14回 Chronology 2007.11-2008.04<br>第15回 Chronology 2008.05-2009.04 |            |
| 進め方                                   | 新聞の要約、簡単な英文和訳と関連する簡単なwebsiteを中心とした調査などの宿題を毎週課します。各自持ち寄った調査結果をもとに授業を進めます。毎回回収する答案と宿題に基づき、出席点と平常点を評価します。授業への積極的な参加度を重視します。就職活動などを言い訳にせず、宿題を遅れず提出すること。正当性のない遅刻・欠席は厳禁。  |  |            |
| テキスト                                  | 開講時に指示します。  | 参考文献   | 開講時に指示します。 |
| 評価方法                                  | 出席点・平常点:40% レポート(2回):30% 試験(前後期計2回):30%   |  |            |

|                   |   |   |   |
|-------------------|---|---|---|
| キリスト教と文化          |   | 通年 4 単位   |   |
| C. S. Lewisとキリスト教 |   | 伊藤 勝啓 (いとう かつひろ)  |   |
| ねらい               | C. S. ルイス (1898—1964) の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。  |   |   |
| 授業計画              | <p>【前期】</p> 第1回 概要説明+このコースを取った理由と自己紹介<br>第2回 ルイスの幼・少年時代<br>第3回 母の死と家を離れる<br>第4回 学校生活、兄と友人<br>第5回 カーク・パトリック夫妻とともに<br>第6回 第一次世界大戦の中で<br>第7回 ミセス・ムーアとルイス<br>第8回 信仰にいたる巡礼<br>第9回 クリスマスとなってからの文学活動<br>第10回 第二次世界大戦とルイス<br>第11回 ナルニア国物語<br>第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで<br>第13回 Joyとの短い結婚生活<br>第14回 ルイスの最後の日々<br>第15回 ルイスとキリスト教 | <p>【後期】</p> 第1回 発表と論評<br>第2回 同上、2<br>第3回 同上、3<br>第4回 同上、4<br>第5回 同上、5<br>第6回 同上、6<br>第7回 同上、7<br>第8回 同上、8<br>第9回 同上、9<br>第10回 同上、10<br>第11回 同上、11<br>第12回 同上、12+クリスマス祝会<br>第13回 同上、13<br>第14回 同上、14<br>第15回 最後の論評とまとめ |   |
| 進め方               | 講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。  |   |   |
| テキスト              |   | 参考文献  | C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるもので是非読むようにすること。マタ、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む |
| 評価方法              | 出席:50% 発表:50%   |   |   |